



七五三パーティー

3歳5歳7歳は、子どもの成長の節目といわれますが、そのときを健やかに過ごせたことを喜び、お祝いをする行事が「七五三」です。地域によって多少異なりますが、男子は3歳と5歳、女子は3歳と7歳にお宮参りをします。また千歳飴は、江戸時代に江戸の浅草の飴屋が考案し、長生きするようにという意味で細長くつくられたものです。

園では、“たくさんの人に見守られて大きくなったことへの感謝の思い”と、“みんながいつまでも元気で幸せに”という願いをこめてお祝いします。



すいこうだって食育PR

給食レシピをバザーのメニューに取り入れました。

チキン給食セット

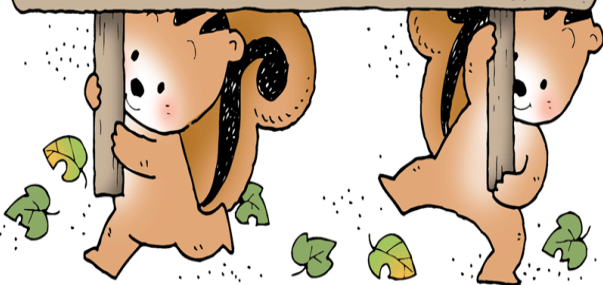
子どもたちの人気メニューをバザーで提供します。

醤油焼き…にんにくの香りが食欲をそそる一番人気のチキンです

タンドリーチキン…ヨーグルトを使ってオープンで焼いたチキンです

ケチャップ和え…から揚げをケチャップでからめた甘酸っぱいチキンです

是非ご賞味ください。



令和5年

11月の園だより



すいこう認定こども園

食べることは生きること！

9月から10月にかけて史上最強クラスの台風が、いくつも東日本北日本を襲い、大きな被害をもたらしたうえ、多くの方の命が奪われ、いままなお行方不明の方の捜索が行われています。さまざまな報道が流される中、『老人ホームでは、施設長の的確な判断で、夜中にかかわらず垂直避難をしたため全員無事に救出された。』とか、『孤立した幼稚園の園児が水陸両用車で無事に救出された。』などといったことを耳にすると、施設長の判断というのは、生死を分ける重要な判断であることを痛感しています。災害が起こったとき、的確な判断ができるようさまざまな場面を想定した訓練、シュミレーションを繰り返しながら、近隣の方々に助けをいただけるよう、日ごろのコミュニケーションを大切に子どもたちの命を守らねばと思っています。

さて、10月16日の中国新聞に『広島県教育委員会の企画で給食レシピを元にした商品が、市内のデパートで販売される。』という記事が掲載されていました。これは、幅広い世代に食育に関心をもってもらうといった取り組みのようです。

そういう県教委の取り組みに先駆けて、すいこうでは、『食』についての取り組みを年間を通して計画しています。焼きそばづくりなどのクッキング保育はもとより、園庭の小さな畑で育てたポップコーン用のトウモロコシを育てて収穫し、しばらくお部屋に干したあと、ホットプレートを使ってのポップコーンづくりは、最高に子どもたちの興味を引き、意欲を掻き立てました。その後、「ポップコーンと言えば映画館！」という子どもたちの豊かな発想のもと、映画館ごっこに展開し、プロジェクターを使って年少さん、年中さんを招いて映画館ごっこを行いました。あそびのヒントは、いろいろなところに隠れているのです。

昨年より、毎朝年長児のお当番さんが、その日の給食に入る人参やジャガイモなどの野菜の皮をむいでサイコロ切りにしたり、お豆腐や油揚げ

を小さく切ったりなどのお手伝いをしています。お手伝いをしながら「お豆腐と油揚げは、途中で大豆からできている」といったことなど食に関する小さな情報を給食先生から教えてもらおうと、お部屋に帰ってみんなに得意そうに話しています。ある日、お当番さんの様子をとて興味深そうに見ていた年中クラスのMちゃん。お当番さんは、Mちゃんの苦手なピーマンを千切りにしていました。その日の給食を食べた後、Mちゃんは、「ピーマン苦手だったけど、お当番さんが切ってくれたからちょっぴり食べた。」と話してくれました。ちょっぴりだったけどMちゃんが自分で食べようと思ったことに大きな意味があると思います。また、給食の食材に大きなパブリカやとうがんなどがあると、給食先生が、事務所の前においでくれます。登園した親子は、「なに？このおっきな野菜！」「わー！お化けパブリカだ！」「今日の給食、楽しみだね。」などと楽しい会話か聞かれます。給食をとて楽しみにしているので、子どもたちは、よく食べます。1歳児さんも「ごちそうさましようか。」と声をかけると、いやいやと首を振る子どももいます。給食室でお代わりをもらおうと嬉しそうにしています。

毎日当たり前に頂いている給食ですが、給食を楽しみにし、「おいしい給食」となるよう取り組んでいます。たくさん食べることや苦手なものを食べることを無理強いして、食べさせるよりも、少しの量でも自分から食べることの方が、身体だけではなく、心の育ちにもつながっていくものと思っています。食べることは、生きること、生きる力を育てていくことなのです。

今月は、魔法の力でホールが子どもたちの夢とあそびがいっぱい詰まった楽しい空間に代わります。ご家族お揃いで、またご近所の方々もお誘い合わせのうえ、楽しい一日をお過ごし頂ければ幸いです。

園長

乳児さんだって、わくわくしてる！！

0.1.2歳児さんは、ぱんだ組さんのお部屋をあそびのスペースとします。小さな子どもたちが日頃遊んでいる様子を写真やドキュメンテーションで紹介したり、子どもたちお気に入りの手作りおもちゃを用意します。わくわくドキドキしながらも安心できるあそびのスペース。みなさんでお越しくださいね。

子どもの絵の中にある思い

作品展では、幼児さんの絵も展示します。たくさん絵が並ぶと、無意識のうちに「こっちは絵は、人をいっぱい描いていて上手だね。」とか、「線がはっきり描いてあるからよくわかるね。」などと大人の目線で評価してしまうことがあるのではないのでしょうか？

すいこうでは、出来上がった作品を評価するのではなく、描いているときの表情やつぶやきを受け止め、描きたいという気持ちを大切にしています。そういう気持ちで描いている子どもは、たとえば、はっきりとした形になっていなくても楽しそうに、生き生きと描き、「先生、あのね…」とその絵に込めた思いを一生懸命話してくれます。そのお話が楽しくてたまりません。子どもの絵は、心の鏡です。楽しく描くことが大切です。保護者の皆さんにもお子さんの絵を見ながら、その絵に込められた思いをしっかり聞いていただけることを願っています。

